



熊野・御浜・紀宝 中山間地域農業農村総合整備事業情報誌 「わたしの故郷、未来へともに」

— 誰もが羨む柑橘団地を目指して 御浜町阿田和団地 農業用排水施設整備事業 —

県営中山間地域総合整備事業 御浜西部2期地区・御浜地区で柑橘団地の再整備計画として事業計画された阿田和団地の農業用排水施設整備事業について、事業化に至るまでの経緯や現在の状況について、阿田和団地理事 古川さんと御浜町役場農林水産課 瀬古さんにお話をお伺いしました。

■歴史ある御浜町柑橘の産地と暮らしを次世代へ

御浜町は、三重県の最南端熊野灘に面し、温暖な気候と土壌の自然条件に恵まれており、昭和50年には国営農地開発事業で柑橘団地が整備され、三重県における果樹農業の中核地域となっている。一方で、国営事業で整備された灌漑施設は更新の時期を迎えており、令和4～12年度にかけて県営中山間地域総合整備事業御浜西部



写真-1 事業への思いを語る 阿田和団地古川理事

2期地区・御浜地区として柑橘団地の再整備計画を新規事業化し実施する計画となっている。整備においては、施設の更新に加え、樹園地（耕作放棄地）の再整備を行い、新たな担い手へつなぐ計画である（表-1）。

■これからの柑橘栽培は水需要が増大する！

7～8年くらい前からは、毎年2～3か所は用水を送る管に漏水があり、そのたびに団地の組合員自身で補修していた。阿田和団地以外の団地でも、同様の事態が起きており、施設の老朽化を実感していた。

また、国営事業で整備された当時の用水計画上の利用目的は、病害虫防除のみが想定されていた。さらには、高品質で収益性の高い安定的な柑橘生産に寄与する再整備事業の実現に向け、マルチドリップや根域制限栽培に対応する灌水のための新たな水需要に加えて、三重南紀地域の特徴である「みえ紀南1号」を代表とする極早生温州みかんを栽培するための冷却・

■柑橘とともに輝く未来へ

阿田和団地は、海を見渡すことができる団地だ。晴れた日には、青い空と海のもと、一面みかん畑が広がり、潮風が心地よく吹き渡る。すべての団地の中では最初に、温州みかんの花が咲くそうだ。阿田和団地から他の団地へとみかんの花が咲き移り、町全体に、今年もみかんの季節がやってきたと活気づく。

「新規就農者が『阿田和団地でみかんを作りたい』と希望を持ち、再整備を

日焼果防止用水等を目的とした自動スプリンクラーをも考慮し、将来を見据えた用水計画を策定することが求められている。

そんなとき、御浜町で県営中山間地域総合整備事業の計画が持ちあがり、「みかん団地の再整備」をテーマとして事業採択に向けて取り組むこととなった。

きっかけに誰もがほしがる園地にしていきたい。産地としてのパワースポットとなればと思っている。」

古川さんが笑顔で、自身が描く夢を話してくれた。人口減少が進むなかで、農業の担い手も減少していくだろう。阿田和団地は、現在、植栽面積28ha、営農者数29名で営農している。将来は、今よりも少ない営農者数で今ある営農面積を守っていくこととなるだろう。「農家は一人で作業することも多い。人が減っても、団地に来たら、同じ夢を描き、支え合える仲間に見えるような環境にしたい」と古川さんと自身も阿田和団地で柑橘栽培もしている瀬古さんが語る姿を見て、営農を取り巻く現状は厳しいことばかりではないと感じることができた。

■取材を終えて

目を閉じれば、再整備を終えた阿田和団地の中心にある道路沿いで軽トラックが行きかい、人が集まり、笑い合いながら色々な話をしている、その周りにはたわわに実るみかん、光に満ちた人々の姿が思い浮かぶ。本事業がきっかけとなり、話し合う場が増え、団地としての一体感が高まっている。公共事業が地域の未来形成の一役を担うことができ嬉しく感じた。（熊野農林事務所 山口、小山、後藤）〈取材：令和6年3月〉



写真-2 現在は耕作放棄地となっている園地事業で再整備を行い新たな担い手が営農する計画



写真-3 みかんの収穫風景
3月はセミノールが収穫真っ盛り

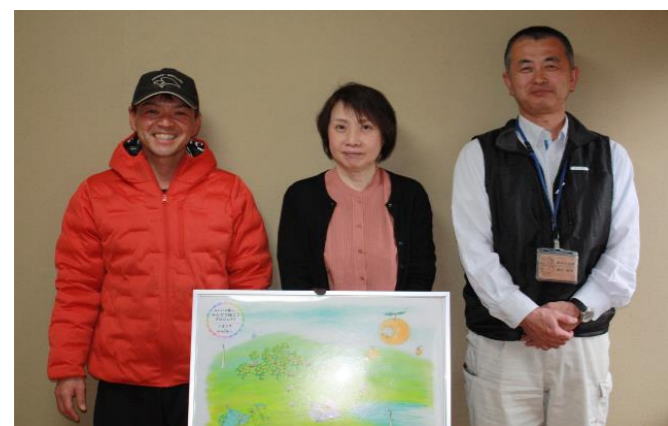


写真-4 左から、阿田和団地古川理事、御浜土地改良区永田事務局長、御浜町役場瀬古さん

■団地全体での意識の向上
事業採択が決まるまでの間、古川さんは、阿田和団地の組合員が集まる様々な場で再整備の必要性や整備内容について、皆で話し合うよう心掛け、団地全体の意識を高めていった。そうするうちに、共有の課題を認識する仲間が増え、将来のビジョンなど情報共有も進んだ。また、三重大学や県内外の企業などとともにスマート農業の実証実験を行うなど、未来への園地整備の在り方を考え続けている。さらに、後継者がいない園地が耕作

放棄地となっている現状を踏まえ、新たな担い手との調整を行い、本事業で耕作放棄地を営農できる園地へと農地造成する予定だ。整備は、車両などが走行できるよう将来のスマート農業の実現を見据えている。いま、御浜町では、柑橘栽培を志す新規就農者の数が増えている。「希望する人が安心して営農できる園地の整備を進めていきたい。」と御浜町役場の瀬古さんは熱心に話してくれた。御浜町は、「年中みかんがとれる町」として多種多様なみかんの栽培が進んでいるように、将来同町で多様な人々が暮らす力強い姿が想像できた。